

インフルエンザ情報

国立感染症研究所感染症情報センター（<http://www.nih.go.jp/niid/ja/from-idsc.html>）は、「インフルエンザ流行マップ第20週（5月13日～5月19日）平成25年5月22日現在」を平成25年5月24日に公表した。

（コメント）

2013年第20週の定点当たり報告数は1.87（患者報告数9,221）となり、前週の定点あたり報告数1.91よりも減少した。

定点医療機関からの報告をもとに、定点以外を含む全国の医療機関をこの1週間に受診した患者数を推計すると約10万人（95%信頼区間：9万人～11万人）で減少した。年齢群別では5～9歳が3万人、10～14歳が2万人となっている。また、2012年第36週以降これまでの累積の推計受診者数は約1,364万人（95%信頼区間：1,333万人～1,395万人）であった。

都道府県別では富山県（6.69）、宮崎県（5.58）、福井県（3.97）、石川県（3.75）、佐賀県（3.74）、青森県（3.59）の順となっている。富山県の定点あたり報告数は2以上増加したほか、19都府県で前週の定点あたり報告数より微増した。

全国の保健所地域で警報レベルを超えているのは1箇所（宮崎県）で、同県内にて前週より減少した。保健所地域で注意報レベルのみを超えているのは3箇所（富山県、長野県、大阪府）であった。

2013年第15週から第19週の国内のインフルエンザウイルスの検出状況をみると、B型が最も多く検出されており、次いでAH3亜型、AH1pdm09の順となっている。詳細は感染症情報センターホームページ（<http://www.nih.go.jp/niid/ja/iasr-inf.html#graph>）を参照されたい。

なお、第16週～第20週までの都道府県別の定点当たり報告数の推移【感染症情報センター発表の「感染症発生動向調査週報」等を基に機構で作成】

※定点とは、発生動向調査の観測用に選ばれた医療機関のことで、地域の流行状況について全体の傾向を可能な限り反映できるように、保健所ごとに設定されています。

